

小学校国語B (主として「活用」に関する問題)

平成26年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。話し合いや調べ学習などの身近な場面をとおして、話合いの観点や疑問点をとらえる、まとめる、比べる、考えを持つ、表現するなどの問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
2.3%下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語B	53.2	54.6	55.5	-2.3



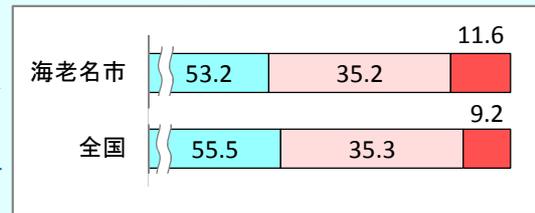
誤答の様子は…



分布の様子は…

《誤答の内訳(%)》

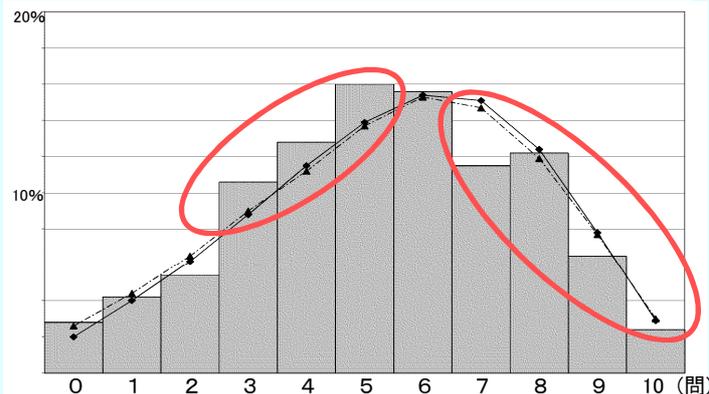
■ 正答 ■ 誤答(書いたが誤答だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は11.6%でした。

《正答数による分布》

■ 海老名市 --▲-- 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が3~5問の児童が多く
7問以上の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~5問)の児童の割合は51.8%でした。(全国は46.2%)

* 正答率80%以上(8~10問)の児童の割合は21.0%でした。(全国は23.4%)

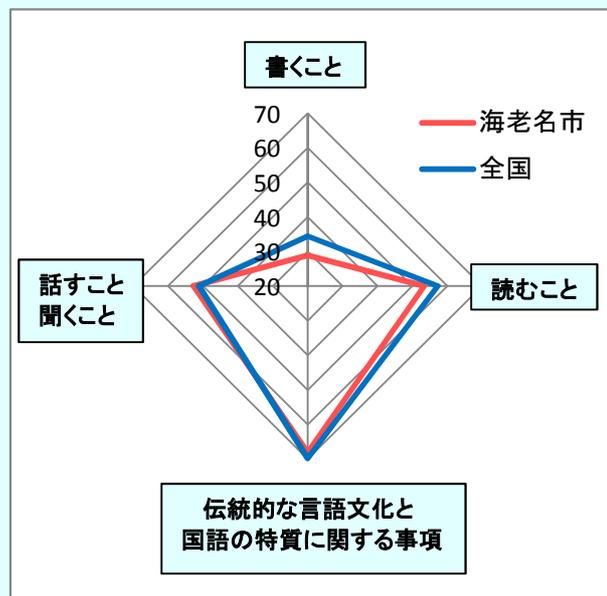
領域別の正答率

「話すこと・聞くこと」が
全国をやや上回っています

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	52.8	51.2	+1.6
書くこと	28.9	34.4	-5.5
読むこと	53.4	57.3	-3.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.0	69.8	-1.8

* 「話すこと・聞くこと」については、1.6%上回っていました。

* 「書くこと」については、全国的に正答率が低い状況ですが、さらに5.5%下回っていました。



伝統的な言語文化と
国語の特質に関する事項

内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った項目	<ul style="list-style-type: none">○ 話合いの場面で、2人の発言に共通する部分を考えて書く。(＋4.2)○ 話合いの場面で、質問者が何をねらって質問しているのかを考えて選ぶ。(＋2.8)	全国を下回った項目	<ul style="list-style-type: none">○ 2つの詩を読み、共通点や相違点などに着目して80～100字で考えを書く。(－10.8)○ 読み物からわかったことや疑問を整理し関連づけながらまとめて書く。(－3.7)○ 読み物を読んでまとめたメモを見ながら疑問点を15～40字で書く。(－3.5)
-----------	---	-----------	---

国語Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

2つの詩を読み比べて、自分の考えを書く設問 (全国との比較-10.8%)

* 2つの詩「タンポポ」「たんぼぼさんがよんだ」(まど・みちお著)を読んで

あなたは、【詩1】と【詩2】を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件にあわせて書きましょう。

〈条件〉

- 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。
- 「たんぼぼ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

正答は省略

☆国語Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が7問以上の児童が少なく、3～5問の児童が多いこと、また、後半の設問ほど無解答率が高いことから、読むこと、書くことの高める必要がある。
- ◆ 話すこと・聞くことの領域において、話合い活動に関する設問の正答率が高く、授業での取組の成果が見られる。
- ◆ 文章を書くことを難しいと思っていないが、条件に合わせて適切に書くことに課題があり、その能力を高める必要がある。

指導の改善にむけて

◆ 「読むことの指導を充実させる」ために

- 学校図書館などを活用して、読書活動の充実を図る。
- 目的に応じて、文章の内容を的確にとらえて読む力を指導する。

◆ 「書くことの指導を充実させる」ために

- 日常的に、自分なりの意見や考えを文章にまとめるように指導する。
- 目的や字数などの条件にあわせて文章を書くことを指導する。

※ 日常生活の中で繰り返し、読むことや書くことについて取り組む。